

中学校社会研究部

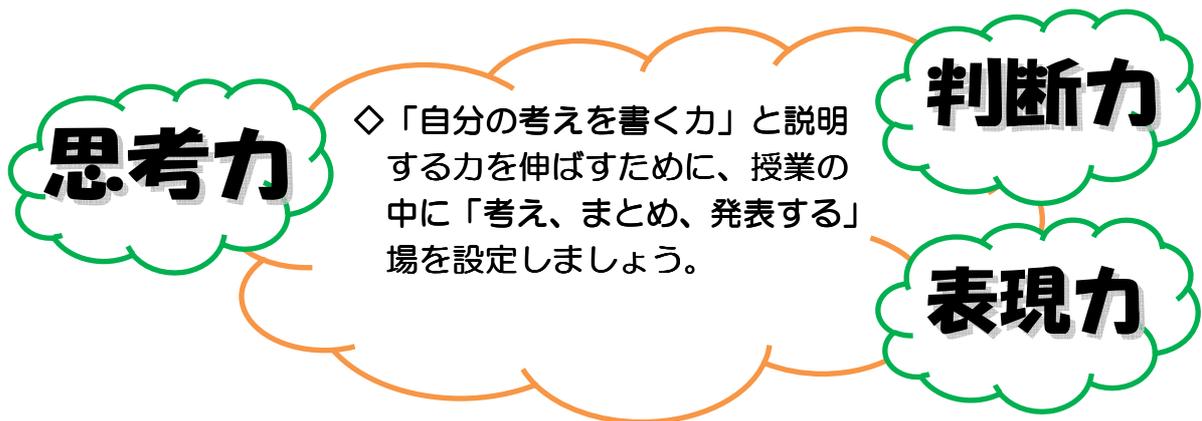
I 研究主題

生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を伸ばす社会科学習指導

－考える発問の工夫を中心に－

II 研究主題設定の理由

所沢市では「学校・家庭・地域が一体となった取組」を提言し、子どもたちの学力を向上させる学び改善プロジェクトを推進している。そして、「自分の考えを書く力」と「説明する力」を伸ばすために、授業の中に「考え、まとめ、発表する」場を設定している。具体的な取組として<◆「1時間」の学習目標の提示>と<◆考えを引き出す発問の工夫>を示し、見通しが持てる授業の創造を目指している。



そこで本研究部では、授業における「思考力・判断力・表現力」の育成に視点を当てて、実践を通して研究を深めることにした。それにはまず、自分たちが普段行っている「授業」を振り返ることから始めた。すると、知識・理解の定着に主眼が置かれていることが明らかになった。もちろん、その「内容」を理解させるために、様々な工夫や改善を重ねて授業に取り組んでいる。しかし、今回のねらいである「思考力・判断力・表現力」を1単位時間の中で伸ばしていくには不十分であることがわかった。

そして、「自分の考えを書くこと」と「考え、まとめ、発表すること」に重点を置き、「思考力・判断力・表現力」を伸ばしていくには、従来の授業スタイルを変革し、「授業改善」に取り組んでいかなければならないと考え、本主題を設定した。

また、本研究部では、今年度の研究を各学校で具体的に活用できることを目指して、「このように授業改善に取り組めば、誰でも思考力・判断力・表現力を育成する授業が行える」ということに主眼を置いて研究に取り組んだ。

III 研究の内容

1 研究の仮説

生徒が主体的に学ぶ授業形態を整え、授業の場面において、考えを引き出す発問が工夫されれば、その中で、思考力・判断力・表現力の伸長が図られるであろう。

2 研究の取組

(1) 授業改善

授業改善の方法として以下のように考え、生徒が主体的に学ぶスタイルを整えていった。

○教育機器の積極的な活用

- ・コンピュータの活用
プロジェクタ、インターネット（グーグルアース）等
- ・AV機器の活用
50インチテレビ等



○小グループにおける思考力・判断力・表現力を育成する学習

- ・4人以下の学習班編制

個人で考える場面、意見を発表する場面、話し合いをさせ、グループとしての意見をつくる場面

- ・ホワイトボードの使用

自分の考えを書く場面、まとめ発表する場面の補助教材として

○その時間の目標を達成するための「発問の工夫」

- 1 単位時間の目標を黒板へ明示、中心発問の掲示



(2) 教師が授業をコーディネートする力を身につける

○発問の工夫

1 単位時間の目標を明示することにより、中心となる発問が明らかになる。

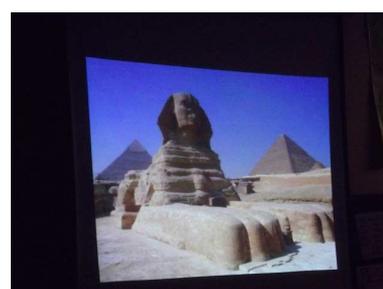
○言葉を精選する

事前の指導案検討会を生かして、教師の言葉を研ぎ澄まし、生徒に投げかける。



(3) 基礎的・基本的事項の徹底

「考えるため」にはベースとなる基礎的・基本的事項の習得が大切である。生徒の主体的な学習を支えるため、教師が「教える時間」についても単元計画の中で明示した。但し、いわゆる「教え込み」にならないよう、上記の機器等を活用し、工夫した。また、授業の冒頭に簡単な知識確認テストを取り入れるなど、定着にも力を入れた。



IV 実践例①

<所沢市立東中学校の事例>

1 単元名 「世界の諸地域（アジア州～中国を中心に）」

2 単元の目標

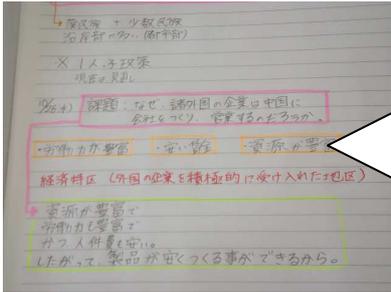
- 中国の地域的特色を理解するために、「経済成長」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究できる。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 中国の学習テーマを追究していく過程において、その地域的特色をいろいろな視点から考察し、表現できる。 (社会的な思考・判断・表現)
- 中国の学習テーマを追究していく過程において、様々な資料を関連づけながら利用する(分析・読み取り・比較など) ことができる。 (資料活用の技能)
- 中国について、「経済成長」に関する学習テーマの追究を通して、その地理的特色を地域の環境条件や他地域との結び付き、人間の営みとの関わりなどからとらえ、ノートなどにまとめることができる。 (社会的事象についての知識・理解)

3 単元の評価規準

評 価 規 準			
社会的事象への関心・意欲・態度(主な評価等)	社会的な思考・判断・表現 (主な評価等)	資料活用の技能 (主な評価等)	社会的事象についての知識・理解 (主な評価等)
中国に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、その地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 (発表内容)	中国の地域的特色を様々な資料を基に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (発表内容・ノート)	中国の地域的特色に関する様々な資料を収集・選択し、その情報を基に、中国の地域的特色について読み取ったり、白地図にまとめたりしている。 (発表内容・ノート)	中国について、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 (ノート・定期テスト)

4 指導計画と評価計画（5時間扱い）

時間	主な学習内容	評価
1	◎中国をながめて①	関 中国について知っていることなどを意欲的に発表できる。 知 中国の様子を大まかにとらえることができる。
2	◎中国をながめて② 課題設定	技 中国に関する資料を適切に読み取ることができる。
3	◎豊かで多様な 農業生産	思 中国の農業に関する資料をもとにその特色を考察することができる。
4	◎世界の工場となった中国	※本時の展開 参照

<p>2 0 分</p>	<p>●課題追究 △4人グループで行う。</p>  <p>グループ活動</p> 	<p>○資源、土地、賃金、労働者のヒントを出し、資料を提示し、考察させる。</p> <p>評 課題を追究する視点を持ち、資料を読み取り、分かりやすくまとめることができる。</p> <p>評 既習事項を生かして表現しようとしているが、なかなかまとまらない。また、無言の生徒もいる。</p> <p>H: 中国の豊富な資源でつくったものを日本で売る? M: 資源が多い。たくさんのが安くつくれる? T: … I: …</p> <p>友達との意見交換</p> <p>資料についての具体的な説明を行い、さらに、まとめ方についての助言も行った。</p>	<p><input type="checkbox"/>技能 <input type="checkbox"/>表現</p>
<p>1 0 分</p>	<p>●班ごとに発表する。</p> 	<p>グループ活動→個人の思考が深まる→発表 個人で考えるよりも、友達と意見交換することで、他の考え方を知ることができ、思考を深めることができる。</p>	
<p>1 0 分</p>	<p>●課題に対するまとめを全体で行う。</p> <p>ノートにまとめる</p> 	<p>評 学習内容を理解し、資料の読み取りを通して、課題に対する自分の考えをまとめることができる。</p>  <p>配慮を要する生徒へは、「書き方の型」を示したことで、自分でまとめやすくさせた。</p>	<p><input type="checkbox"/>表現 <input type="checkbox"/>知識</p>

(備考 在籍数 男子20名 女子17名 合計37名)

6 ルーブリックについて

中国で、急速な経済成長が進んだ理由について考える。一人々の生活に視点をあててー
 <課題に対するノートのまとめ・話し合い>

	A：十分満足できる 状況	B：大むね満足できる 状況	C：努力を要する状況
社会的な思考・判断・表現	様々な資料を基に課題を追究し、分かりやすく適切に表現できる。	資料の説明を受け、課題を追究し、表現できる。	資料の説明を受けても、自分で表現できない。

<生徒の思考の流れ>

1. ヒントを確認し、資料の読み取りを行う。

資料1



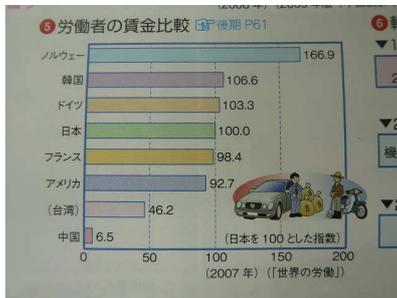
ヒント：労働力、資源、賃金

努力を要する状況の例

- ・人口が多いから労働力がある
- ・土地が広いから資源が多い
- ・賃金は…

既習事項、ヒントを参考に、文章で表現しているが「賃金」の資料の読み取りができていない。
 国別賃金のグラフに注目するように指示をした。

資料2



大むね満足できる状況の例

- ・人が多くて、労働者も多いから。
- ・賃金が安いから、その分たくさん人をやとえてたくさん製品が作れるから。
- ・豊富な資源を使って、大量の製品をつくり、輸出することができる

2. 資料を読み取り、自分たちで文章をつくり表現する。

十分満足できる状況の例

海沿いに沿岸開放都市が多くあるため、他の国が進出しやすく、資源もあり、賃金も安いので、諸外国の企業は中国に会社をつくり営業するから。

自分たちの力で表現できるように、助言した。さらに、今後の課題：「沿岸部だけが発達し、人々の貧富の差が激しくなってしまうのではないか」まで考える班もでてきた。

課題：思考力・判断力・表現力の育成のための指導と工夫

研究を進めるにつれ、生徒は学習のスタイルに慣れてきたが、自分の言葉で書けない生徒も多くいた。そのため、課題を提示し、ある程度時間をとった後、配慮を必要とする生徒には「書き方の型」つまり「わたしは〇〇と考える。なぜなら…」などと提示するように工夫した。すると、だんだん自分の言葉で表現できる生徒が増えてきた。

Ⅴ 実践例②

＜所沢市立小手指中学校の事例＞

1 単元名 「文明のおこりと日本の成り立ち」

2 単元の目標

- (1) 古代の歴史的事象に関心をもち、主体的に調べ学習を行い、課題を解決しようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 当時の文献資料を読み、遺跡・遺物の写真の観察から、古代の歴史的事象を調べることができる。
(資料活用の技能)
- (3) 古代の歴史的事象をとらえ、多面的・多角的な見方や考え方で歴史的背景について考察できる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (4) 人類が出現し古代文明が生まれたこと、日本列島で人々の生活が農耕の始まりで変化したことを理解し、国家の形成過程を東アジアとかかわりをふまえて説明できる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元の評価規準

評 価 規 準			
社会的事象への関心・意欲・態度 (主な評価等)	社会的な思考・判断・表現 (主な評価等)	資料活用の技能 (主な評価等)	社会的事象についての知識・理解 (主な評価等)
世界の古代文明に関心をもち、古代における我が国の歴史の大きな流れについて意欲的に学習することができ、話し合いなどにも積極的に参加している。 (発表内容)	祭器や農具などの金属器の使用や文字の発明などから、古代文明の特色を考察することができ、東アジアとの交流や大陸から移住した人々が、我が国の社会に与えた影響を考え、発表している。 (発表内容・ノート)	遺跡や遺物の発見などの考古学の成果を活用し、当時の人々の生活の様子を具体的にとらえることができ、中国の文献などを活用して、古代における我が国と東アジアとの関わりについて読み取っている。 (発表内容・ノート)	人類が出現し、やがて古代文明が生まれたこと、生活の変化について説明でき、国家形成の様子を東アジアとの関わりや古墳の分布、大和政権による統一と関連付けて理解している。 (定期テスト)

4. 指導計画と評価計画

時間	主な学習内容	評 価
1	◎人類の出現と進化	<u>知</u> 人類の出現や進化についての様子を大まかにとらえている。
2	◎旧石器時代と新石器時代	<u>知</u> 旧石器時代新石器時代の特徴を理解している。 <u>思</u> 農耕による生活の変化を考察している。
3	◎文明の発祥	※本時の展開 参照

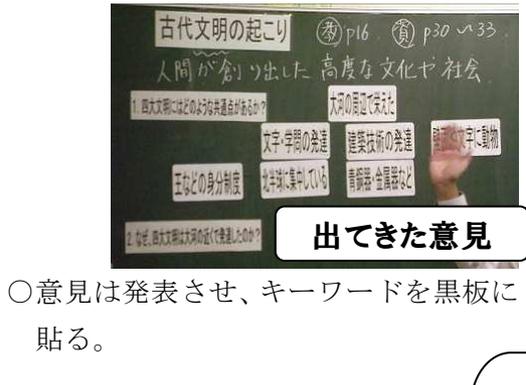
4	◎中国の古代帝国	知 殷から漢までの大まかな流れを理解している。 技 文字や金属器の使用などの特色をとらえている。
5	◎縄文文化と弥生文化	思 縄文時代と弥生時代の特徴を理解し、日本列島に住む人々の生活がどう変化したかを考察している
6	◎国々の誕生と古墳文化	技 日本の国家が形成されていく様子を読みとる。 知 古墳文化の特徴をとらえている。
7	◎大王の時代	知 大和政権の動きを、東アジアの中でとらえている 思 渡来人が日本に与えた影響について考察している

5 本時の目標

- (1) グループやクラス全体の意見交換を通して、多面的・多角的に考察し発表する。
(思考・判断・表現)
- (2) 四大文明の共通点を考え、文明の発展には水がかかせないこと、農耕と牧畜の発展によって人々の生活が豊かになり、国家や身分制度ができたことを理解する。
(知識・理解)

6 本時の展開

	△学習活動・●学習内容	○教師の支援・配慮事項	資料 □評価
導入 5分	●四大文明に関する写真を提示する。(スフィンクス、ピラミッド、ツタンカーメン) △古代文明が栄えた場所はどこか、教科書を見て発表する。	 エジプト文明の写真 四大文明	写真 授業プリント 世界地図
	<p>作業1:四大文明には、どのような共通点があるか？ 教科書、資料集を使って調べなさい。</p>		
	△3～4人の班をつくり、教科書、資料集等を使って調べ、授業プリントに記入する。 △プリントに意見が書けた生徒は発表し、他の班から出た意見をプリントに記入する。	<p>※予想される意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大河の周辺でさかえた。 ・建築技術が発達している。 ・独自の文字、学問が発達した。 ・王や奴隷などの身分制度がある。 ・青銅器、金属器を使った芸術作品が多数ある。 ・四つの文明は北半球に集中する。 ・動物が描かれている。 	



授業プリント
 技能
 (調べる)
 思・判・表
 (考える)
 関・意・態
 (発表)

発問1:なぜ、四大文明は大河の近くで発達したのか？

△班で話し合い、プリントに意見を書く。書けた生徒は、意見を発表する。他の班から出た意見をプリントに書く。

- ※予想される意見**
- 生活用水が手に入るため。
 - 農業には水が必要なため。
 - 動物を飼うにも水が必要。
 - 船で物を輸送するにも便利。

生活に必要な不可欠な「水」の確保の大切さを考えさせることにより、思考力を深める。



○意見は、発表させキーワードを黒板に貼る。

思・判・表
 (考える)
 関・意・態
 (発表)

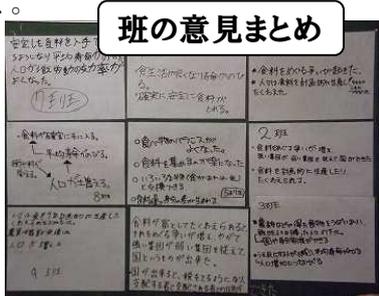
発問2:農耕・牧畜によって人々の生活はどのように変わったのか？

△グループに分かれ、司会・書記など役割分担をさせ、課題を追究する。付箋に自分の意見を書かせ、グループで話し合っ、結論を出す。

- ※予想される意見**
- 今までの獲物を求めての移住生活から、定住生活ができるようになった。
 - 食料を計画的に生産できるようになり、生活が豊かになった。
 - 食料をめぐる争いが起こるようになり、強いものと弱いものという身分制度ができた。
 - 富や権力を手にする王が現れた
 - 動物を飼いならすことにより、食料や家畜の確保ができた。

狩猟採集と農耕牧畜の生活、それぞれの立場に立ち、生活の違いを考えさせ、思考力を深める。

△各班の話し合いの結果を、ホワイトボードにまとめ発表する。他の班で出た意見をプリントに書く。

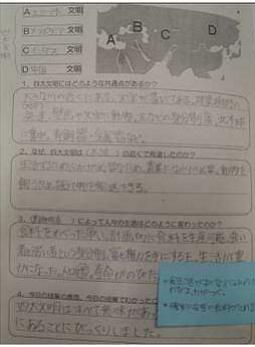


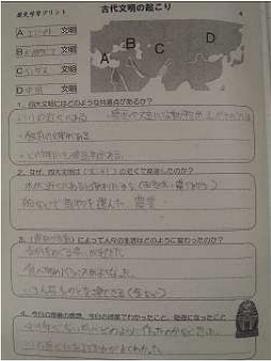
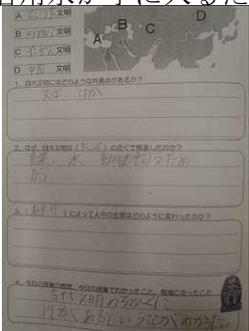
○班で出た意見はホワイトボードに書かせ、黒板に貼らせる。

思・判・表
 (考える)
 関・意・態
 (発表)

<p>展 開 3 0 分</p>	<p>●写真、グーグルアースを使って、四大文明が栄えた場所を確認する。</p> 	<p>○生徒の意見が書かれたホワイトボードを使って教師がまとめる。</p> 	<p>付箋 ホワイトボード カーペン</p> <p>写真 グーグル アース</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>●学習のまとめ △今日の授業でわかったこと、勉強になったこと、感想を授業プリントにまとめる。 △記入したものを発表する。</p>	<p>○今日出てきた意見などを簡単にまとめ、授業の感想は時間があるようなら発表させる。</p>	<p>授業プリント □技能(まとめる) □関・意・態(発表)</p>

7 ルーブリックについて (社会的な思考・判断・表現の評価基準)

評価	作業1：四大文明にはどのような共通点があるか？	発問1：なぜ、四大文明は大河の近くで発展したのか？	発問2：農耕や牧畜によって人々の生活はどのように変化したのか？
A 十 分 満 足	<ul style="list-style-type: none"> 身分制度ができた アジアやアフリカなど北半球に集中している 青銅器や金属器等の使用 学問が発達した 	<ul style="list-style-type: none"> 船で物資を輸送できる 動物を飼うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 富と権力を手にする王が現れた 獲物を求めての移住生活が定住生活になった 町や村が発達し、都市が誕生した

<p>B お お む ね 満 足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の文字を使用 ・建築技術が発達し、壁画や文字に動物が描かれている ・お墓がつくられている 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に水が必要のため、作物が育てやすいため 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に食料を生産可能になり、寿命が伸びた ・食料をめぐる争いが起こり、強い者と弱い者という身分の違いが生まれた
<p>C 改 善 が 必 要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに大きな川が流れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水等を確保するため ・生活用水が手に入るため 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活が豊かになった ・食料などを他のものと交換することができる ・食べ物のバランスが良くなった ・食べ物が増えて、飢え死にする人々が減った

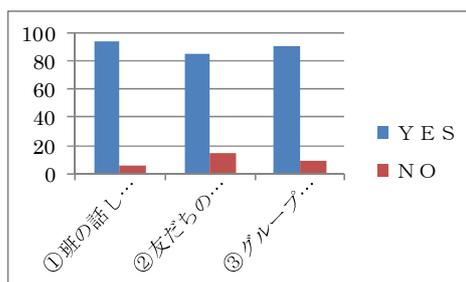
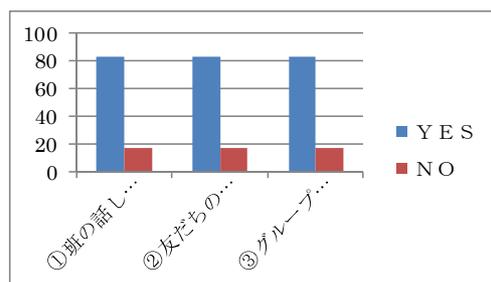
V まとめと課題

本研究では、「歴史的分野」で1事例、「地理的分野」で1事例に取り組んだ。双方の授業とも、研究の視点を生かし、積極的な授業改善が図れた。特に学習のスタイルを整えて、「思考力・判断力・表現力」の育成を図るために、「考える発問の工夫」を中心として実証授業にたった。その結果、以下のような生徒のアンケート結果が得られた。アンケートは、各校とも抽出2クラスを対象として、以下の項目で実施した。

<アンケートの発問>

- ①班の話し合いで自分の意見を持つことができましたか？<思考力>
- ②友だちの意見をもとに、自分の考えを深めることができましたか？<判断力>
- ③班で話し合った結果、意見をまとめることができましたか？<表現力>

総じて「思考力・判断力・表現力」の育成をねらった営みは効果を得た。さらに具体的な生徒の意見をまとめると、下のグラフのような結果が得られた。



- ・自分ひとりでは気がつかない意見がたくさん出てきた。
- ・ひとりではまとめられなかったが、聞くことでできるようになった。
- ・友だちに聞くと、わからなかった意味がよくわかった。
- ・人の意見を聞くことで深く考えることができた。
- ・みんなの意見を聞いて共有することができた。
- ・コミュニケーションが取れて楽しかった。
- ・書いてまとめることで素直に意見を発表することができた。

次に、生徒がうまくいかなかったと感じた点については以下のような項目が挙げられた。

- ・みんなの意見を発表するとき時間がかかった。
- ・話がまとまらないときもあり、まとめるのに時間がかかった。
- ・自分の考えを言える人と言えない人がいた。
- ・限られた時間の中で、資料を読み取り、簡潔に文章にまとめたい。
- ・表現力が足りないと感じた。読む力とともに頑張りたい。



これは、主に繰り返し行うことで獲得されるスキルの側面が必要となる部分でもある。こうした形態の学習を進めていく場合、予想される事項をまとめ、机間指導を通して教師自身が活動の質を高めていく工夫が必要である。特に「発表に対する表現技能の不足する点」を挙げている生徒も見られることから、言語活動の高まりを意識した、授業改善に向けて一層取り組む必要がある。

さて、本研究であるが、この取組を通して「こうすれば思考力・判断力・表現力が伸長する」というような安易なものではない。冒頭でも触れたが、いわゆる従来スタイルの社会科学習が抱えてきた「教え込むこと中心」の社会科学習から、「考える発問を中心に、生徒主体の学習方法を確立」し、生徒自らが事象に対して、「自分の考えを書く力と説明する力」を伸ばすために、授業の中に「考え、まとめ、発表する」場を設定し、伸長を図るものである。一朝一夕には解決するものではない。しかし、単元計画を綿密に行い、学習形態を計画に沿って工夫することで、「思考力・判断力・表現力」の育成を図り、繰り返し、繰り返し積み重ねて実践していくことが必要である。さらに、基礎基本事項を洗い出すために学習指導要領解説書（社会編）をよく読み込み、「この単元で理解させることは何か」と骨格を明らかにしていくことが大切である。そのためには、①年間指導計画の精査、それによる②単元計画の見直し、③学習形態の工夫という「流れ」を教師自身が意識して、「授業づくり」をしていくことが肝要であると感じた。

本研究に取り組むことを通して、これからの社会科における「授業改善の必要性」について考えることができたことが大きな成果であると考えられる。今後とも、さらに研究を深め、生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を高める授業づくりに取り組んでいきたい。